

にらめっこしませう

本井 英

山並の日々澄みわたり鰯釣り

あくる朝鰯は川へ戻せしと

葛蔓へ絡みかへして灸花

地を走る蔓にも二三葛の花

雨に濡るる色とも見えず百日紅

太刀魚のだんびらを釣り上げにけり

太刀魚の箔剥がれつつ売られをり

甘<sup>サ</sup>ト<sup>ト</sup>ウ<sup>ウ</sup> 蔗<sup>キ</sup>果<sup>ビ</sup>ての珊瑚<sup>ウ</sup>礁<sup>ル</sup>の島畑<sup>マ</sup>に

日付ころころ敬老の日なりけり

にらめっこしませう 桔<sup>キ</sup>チ<sup>チ</sup> 梗<sup>コ</sup>ウ<sup>ウ</sup>の花

吻<sup>フ</sup>の黄の美しきかな佳き秋刀魚

灰納屋の小扉ひけば守宮墜つ

着陸機の腹がまる見え翮雲

露草や空濠ふかく削りこみ

茶屋街のほとりに鮎を釣れるかな

鮎釣るや腓に水の逆巻きて

浅野川大橋も月今宵なる

葉黒草咲くやぺろりと舌を垂れ

女郎蜘蛛にあばよと告げて離れけり

まだ青き通草うかべる樹間かな